

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373500291		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム いずみ山荘		
所在地	岡山県吉田郡鏡野町公保田73-2		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500291-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500291-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 12 月 1 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念に基づいた楽しい家作りを目標に、ステップアップを目指していく。日々の楽しみのあるアクティビティケアを提供することにより、  
 ①認知症の重度化予防に努めます。  
 ②心身機能の維持、改善に努めます。  
 ③生活の質の維持に努めます。  
 ※アクティビティケアの1つとして、グループホーム独自の音楽療法に取り組んでおり、トーンチャイムの楽器演奏を通して、利用者の意欲や可能性を引きだす1つとして取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の介護度が上がることを見越して、両ユニットとも機械浴の設備を設け、利用者の快適な暮らしと職員の就業環境の改善に配慮している。また、独自に編集したテレビ体操や歩行訓練を実施し、利用者の心身の機能の維持や生活の質の維持に努めており、一人ひとりが生き生きと活動する姿が見られる。絵手紙や押し花、コーラス、餅つきには地域から多くのボランティアが参加し、利用者と共に活動することで地域に開かれた施設づくりも目指している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、目にする場所に事業所理念を提示しており、職員は共通理解を持ち、毎日のサービス提供に努めている。	玄関と事務所に理念を掲示し、職員会議や行事計画の作成時に話し合うことで共有している。また、申し送りや行事の反省会でケアを振り返り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と定期的交流(年7回)を行っている。又、地域の行事や、公民館行事、町主催のイベントにも参加しており、常に地域との繋がりを感している。又、小・中学校との交流会も毎年実施している。	町内会に加わり、担当者が清掃や草刈りに参加している。地域の祭りや公民館のフェスティバルにはトーン・チャイムの演奏者として参加し、好評を得ている。保育所との相互訪問や小・中学校の地域学習も受け入れ、利用者は子どもたちとの触れ合いを心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、認知症の理解や接し方等の勉強会も行っている。実習生や、ボランティアの受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や、活動取り組み、委員会の報告等を行ったり、勉強会も行い、皆さんからの意見や要望も受け入れている。自己評価結果を報告し、サービス向上に活かしている。	福祉課、地域包括支援センター、町議会議員、民生委員、公民館館長、老人会会長、保育園園長、愛育委員が参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、運営状況、勉強会、意見交換である。会議の中で出た「風船バレー」については、身体機能の継続支援の一環として日々取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議には参加して頂き、利用者の様子やレクリエーションの活動も知って頂くようにしている。又、市町村からの情報も色々と提供してもらい、情報を共有し、連携が図れる様に努めている。	それぞれのユニットの管理者が窓口となって日常的に報告・連絡・相談を行い、関係を築いている。運営推進会議でも活発に意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月委員会や勉強会を開き、職員の理解を深め共有認識を図っている。	毎月、委員会や勉強会に参加した職員が事業所に持ち帰り、職員会議の中で報告し、周知を図っている。やむを得ず実施する場合は、家族に十分説明し、了解を得た上で最低限の実施としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的に勉強会や、話し合いを行い、不適切なケアは絶対に行わないと、周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、講師を招いて勉強会を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書や口頭で、十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも出席して頂き、意見や要望等を出して頂く様にしている。又、定期的に要望・意見を聞いている。	利用者は食事の時に、家族はアンケートや面会時に聴くようにしている。出された意見は、外出や外食、歩行訓練に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、全職員にアンケートを実施し、自分の目標・要望・意見等を記入して、提供している。又、毎月の職員会議や部署内会議で、意見や提案を出し合う様にしている。	職員会議や部署内会議、年に一度のアンケートで意見を把握している。出された意見は機械浴の実施や畳部屋の改装に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得への支援を行っている。就業規則が守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いての研修会や勉強会を実施している。外部研修にも積極的に、参加出来る様にしている。各種委員会を立ち上げており、勉強し、ステップアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の主催する研修に参加し、交流を図り、意見交換や情報交換する事により、互いに質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が緊張しないように、笑顔で、ゆったりとした雰囲気作りに心掛け、何でも気軽に安心して話せるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良いサービスに繋がるように、家族が気軽に来荘出来たり、連絡して来れるよう、コミュニケーションを大切にされた雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話等から、何に不安で、何を求めているかを把握し、安心と納得出来る様なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、互いに教え合い、励まし合いながら生活を共にする事で、互いを信頼し合い、協力し合いの関係作りを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に施設での様子が分かり、理解出来る様、お便りを出し、交流の機会を持ち、その都度情報交換し、互いに支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来荘して頂けるように、行事に招待したり、面会に来て頂いたり、電話連絡して頂き、関係作りを深めている。	入居前に利用していたJAや理容院に通っている利用者もいる。知人や自宅の管理をしている人が面会に来られた時には、関係が継続できるよう言葉をかけている。利用者が家族に電話をかける支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の出来る事・出来ない事を見極め把握し、職員が利用者の輪に入り調整し、楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一敷地内の他施設に入荘した際は、行事やレクリエーションで交流し、情報交換し、これまでの関係性が保てるよう、支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、行動・言動・表情をしっかりと観察したり、家族から情報を聞き、本人の趣味・嗜好を取り入れ、その思いに沿う様努めている。	日々のケアの中で思いや意向を把握している。トーンチャイムで児童クラブと交流するなど、利用者の希望に沿った支援を心掛けている。困難な場合は、生活歴や活動時の表情から判断し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話や、家族からの情報収集により、職員間で情報を共有し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個のペースを大切にしながら支援に努め、朝夕の引継ぎの情報伝達を密に行い、その時々々の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や、職員の引き継ぎの際、出た意見や気づきを検討し、現状に即したケア計画が出来る様調整している。	利用者や家族の意向を取り入れ、毎日歩行訓練をしたり、希望のメニューで食事を作ったりしている。日々のケアの記録と見直し前のモニタリングを基に、全員で検討し計画を作成している。見直しは6月としているが、必要に応じて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個の状態・状況・体調・心身の変化について検討し、それらについて職員間で共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場・その状況に応じた、必要なサービスを臨機応変に対応している。面一的発想にならない様、アイデアを出し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や、地域の保育園、小・中学校との交流会を行い、楽しめる環境作りを行っている。訪問理容の社会資源の活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医がある場合、継続受診して頂き、その際は、家族対応をお願いしている。協力医との連携を図り、変化があれば、連絡・相談し、指示を仰いでいる。又、訪問歯科の活用を行っている。	利用者の多くは入居時に協力医をかかりつけ医としている。症状の急変時には、看護師と24時間対応の協力体制を整えている。歯科については、希望により、往診できる様になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化や状況を、一早く把握できる様に、ナース伝言板を活用し、素早く対応出来、指示を仰いでいる。週1回の通院介助と、外出時介助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、スムーズに治療に専念出来る様に、利用者の情報提供を行っている。また、入院中は、見舞いや連絡を取り、状況把握に努め、病院との連絡を密に取り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所経過後の、状況変化のある時など、その時々意向を確認しながら、対応方針について話し合い、共有し、事業所の力量を把握して、現状での支援の見極めを行い、家族・医療・介護で連携を図りながら支援している。	利用開始時に、重度化対応マニュアルに基づいて丁寧に説明をしている。終末期には対応マニュアルに基づいて再度、家族と話し合い希望に添えるよう努めている。	看取りの経験を両ユニットで共有するとともに、全ての職員が対応できる体制づくりが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てることなく、迅速に緊急マニュアルに従い、行動出来るよう、毎月の安全会議の開催、部署内会議での訓練等を行い、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設消防計画に基づき、年2回、避難訓練を行っている。	法人が音頭を取り、消防署・消防団も参加して行う総合訓練と、ユニットごとの避難訓練をそれぞれ1回以上実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時には、個々の利用者に応じて、声掛けをして、人格を尊重している。また、利用者の目線に合わせるようにも心掛けている。	羞恥心を和らげるために同性の職員がトイレ介助をしたり、入浴時には必ず一対一になる配慮をしたりしている。また、話しかける時の位置や声量にも気を配り、一人ひとりの尊重に努めている。	トイレ内に置いてある箱の記名については、より細やかな配慮が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動時間・余暇時には、利用者の要望を出して頂きながら過ごすよう、自己決定出来る環境にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調等によって、臨機応変に対応をしていて、可能な範囲で個々の利用者のペースを優先している。(食事時間など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣では、利用者自身に選択して頂く事もしている。定期的に理髪店に来て頂いて、利用者の希望を聞きながら、カットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月数回のクッキングの日を設けて、利用者と一緒に調理している。また、毎食食時には、利用者と職員と一緒に話をしながら食事をとっている。	配食を基本としているが、月に数回はクッキングの日を設けて、利用者が希望する献立を作成している。天気の良い日は外のベンチで食べたり、月2回、外食に行くなどの変化も持たせ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は、利用者個々に応じて対応している。水分摂取量・食事量は、毎日記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを促している。介助が必要な利用者には、職員がケアをしている。又、義歯は、夕食後に預かり、洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行っている。利用者に応じて、居室でポータブルトイレも使用している。パットやおシメ等、各利用者に合わせて物を使用している。	排泄記録に基づく誘導により、昼間は多くの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりの状況に応じた対応をしている。自立支援により、紙パンツから失禁パンツへの改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を取り、排便状態を日々把握している。食事面では、野菜類を全食出来る様促したり、水分補給も1500ccを目安に飲んで頂いている。又、毎日、適度の運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、ローテーション制で、公平さを保っている。年数回「入浴を楽しむ日」を設け、普段とは違った雰囲気、入浴を楽しんで頂く事も行っている。	両ユニットとも、機械浴の設備を設け全員が浴槽に入れるよう、工夫している。入浴を楽しむ日を設け、壁の飾りつけをしたり音楽を流したりして利用者がゆったりと入浴できるよう、工夫している。現在、入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調や、生活リズムに合わせ、なるべく日中は、レクリエーションなどに参加して頂くようにしている。日中ずっと起きている事が負担となる利用者には、Dr. や家族とも相談し、居室・ベッドでの休息を促し、穏やかな生活が出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ごとに、服薬記録をチェックし、薬の飲み忘れを防止している。又、薬の変更などがあった際には、ナースより口頭説明の他に、専用の掲示板にも記入してもらう事で、どのように変更になったかが、いつでも確認できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事を把握して、洗濯干し、洗濯たたみ、お膳拭き、カーテンの開閉、新聞たたみ、広告折りなどの仕事をして頂いている。洗濯物を職員が仕分けをし、各自、自分の物をたたむことにより、自分の物は自分ですするという意欲が出る様に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に外出する日を設け、外出支援を行い、束の間だが、気分転換が図れる様に努めている。喫茶店・飲食店・道の駅・大型スーパーなど、様々な所へ出かけている。家族との外出も、希望があれば随時行っている。	日々の散歩をはじめ、月に2回設けている外出日にはドライブや買い物、外食に出かけている。買い物では利用者が支払いをすることで、残存能力の維持に努めている。家族の協力を得て墓参や外食に出かけている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より、家族・知人に電話がしたいとの依頼があれば、随時電話をかけて頂く様に努めている。毎年、年賀状や絵手紙を、家族宛てに制作し、利用者と家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のホールには、レクリエーション等で作った作品の他に、四季折々の写真を掲示し飾る事で、四季の移り変わりを感ぜられるように工夫している。共有トイレには、扉だけではなく、扉の内側にカーテンを設けることで、扉を閉めるのが難しい利用者へ配慮し、羞恥心を抱く事がない環境を作ることが出来ている。	明るく、温度や湿度・音が適切に管理され空気の淀みもない。ユニットの特徴を生かして季節ごとの写真を飾ったり、鉢物を置いたりして生活感を出している。椅子の脚には床を傷つけたり音を出さないために硬式テニスボールを加工して貼る工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のホールには、個別専用の席以外に、ソファを置いており、食後・作業の後などに、くつろいでもらえるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常になじみの物に囲まれた、各利用者にとっての居心地の良い部屋作りを常に心がけ、努めている。なかには、仏壇を持ってこられている利用者もおられ、供え物の花枝や水などは、職員も共に換える事で、安心し生活できる様、配慮している。	ユニットの特徴を生かして、居室には樹木と花の名前を付けている。デジタル写真や仏壇、辞書や筆記具を置き、自宅と同じように暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、足元に足元灯を点灯する事で、一人でも安心して車椅子・トイレの場所が分かるよう、環境作りを行っている。トイレなどには、文字ではなく、マークを掲示することで、羞恥心を抱く利用者にも配慮している。		